



留学生が集まる交流スペース「iFloor」を備えた新校舎

Info

学校情報

取得可能な学位	学士(国際コミュニケーション)	定員	160人
学費	初年度納付金145万円(入学金26万円、授業料83万円、施設費30万円、諸会費等6万円)		
〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1 ☎04-7173-3601			

資料請求はこちら！



学生の目的に合わせた3専攻で地球規模の課題に挑む

麗澤大学は、2024年4月に経営学部と工学部を新設し、ワンキャンパスで文理の学びが実現できる総合大学へと進化しました。創立からの「国際性」と「小規模」へのこだわりは変わらず、アジアを中心とした各国々から多くの留学生を受け入れている。そのため、学内での留学生との日常的なコミュニケーションを通して各国の言語や文化を直接学ぶことができる。また、ワンキャンパスで「小規模」にこだわってきたからこそ、教員と学生の距離が近く、気軽に双方で意見交換ができる上、学部や専攻の垣根を越えた交流もしやすい特長がある。教員が近くにいるからこそ学生の「好き」を学びという形にしやすい、学びに対して自分の「興味」が軸になるため、積極的になれる環境が準備されている。

情報の選別・分析力を磨く

国際学部には「多文化共生」をキーワードとして、留学生と共に日本社会・日本文化について理解を深め、積極的に発信できる人材を育てる日本学・国際コミュニケーション専攻(「JIC」と、国際協力を「自分ごと」としてとらえながら国内外のプロジェクトに参加し、地球規模課題の解決を養う国際交流・国際協力専攻(「IEC」)がある。

そして今年、第3の専攻として、国際社会・国際情報専攻(「ISI」)が誕生。人工知能(AI)など情報

通信技術の革新が進み、膨大な情報に囲まれる現代において、複雑で不確実な国際情勢の分析能力を磨き、多様な情報を選別して国際社会や各国・地域の動向を的確に把握する力を身につけるのが狙いだ。

学生の自主性を積極的に後押し

ISIの授業では、国際関係の理論、外交や安全保障の歴史、各国の政治などについての座学から、現代の国際情勢のメカニズムを理解する。さらに教室の外へ出て多角的な視点を身につけ、問題発見・解決を目指す。国際学部でISIを担当する阿部亮子准教授は「2025年春 semesterでは、オリエンテーションで外国特派員協会と産業経済新聞社の見学、防衛省・自衛隊の役割・装備・編制を学ぶ防衛講座を実施し、ISI生は国際学部の外交講座も受講しました。グループワークでは、ウクライナやガザでの停戦協議を議論の題材にしています」と話す。

学生が自主的にやりたいことを実践できるよう、後押しするプログラムが多いのも特徴だ。学生自ら授業を企画する「自主企画ゼミ」や、フィールドワーク型の「地域連携実習」「課題発見解決型学習(PBL)」は、ISI生も企画・参加できる。日本人学生が留学生と共同作業やゲームをしたり、ネイティブの教員から英会話やライティングの指導を受けたことができる「i100」も魅力的だ。

Q 大学選びのポイントとは？

A 戦争が起こる理由や背景を突き詰めたかった

以前から戦争はなぜ止まないのか、どういう背景があって起こるのかについて考えていました。友人から「麗澤大学の国際学部に新しい専攻ができる」「少数制なので先生との距離が近い」と聞いて、これまでの疑問を解き明かすことができそうだと思う、入学を決めました。

国際学科1年

青山 空斗 さん

Aoyama Sorato

【出身地】

東京都

【力を入れていること】

新聞記事のスクラップブック作成

【好きな国や地域】

米国、中国

Voice 学生の声



Q 大学の魅力は？

A 航空自衛隊の経験談など専門的な話が聞ける

ISIには政治や安全保障に詳しい先生が多くいます。阿部亮子先生からは軍事力を重視する19世紀までの外交と、道徳や規範を重視する20世紀の外交との違いなどを学びました。航空自衛隊で空将を務めた先生もいて、安全保障の最前線に携わった貴重な経験について聞くことができました。

Q おすすめの授業は？

A 英会話の授業は上達への意欲がわく

「グローバルスタディーズ」の授業では、中国や台湾出身の留学生と共に英語力の向上を目指しています。「紙の原稿なしで英語の自己紹介をする」などの課題をこなすのは大変ですが、上達への意欲がわきます。学内の「iFloor」で時々行われる英語による講義を理解できるようになるのが目標です。

Q 興味のあることは？

A 過激派団体が生まれる背景と抑止の手法

オウム真理教を題材として、なぜ誕生・拡大したのか、どうすれば過激的思想を抑えられるかを、安全保障の観点から調べています。警察白書で捜査・調査データを見たり、過去の新聞を見てオウムの関連記事をコピーし、スクラップブックに貼り付けたりして、理論の構築方法を習得中です。

Q 今後の進路は？

A 大学院も視野に入れて他の学生と会話している

学び始めたばかりで明確に考えていませんが、安全保障に対する興味はあるので、研究テーマが明確に定まれば大学院進学も選択肢に入るとしています。留学生からは別の視点の意見を聞き、授業で上級生と同席したときは、安全保障などの知識を積極的に得て、今後に活かせるようにしています。



元F4戦闘機パイロットの織田邦男先生から、安全保障の基本を学ぶISI生たち

Voice 先生の声

国際学部
准教授

阿部 亮子先生

不確実な世界を自力で説明し悪影響を防いでほしい

ISI専攻のコンセプトは、「世界を見る一国際情勢の“今”を、知で読み解く」です。現代の国際情勢に合う「新たな物差し」をつくり、不確実な国際情勢を分析・説明できるリーダーを育成するのがISIの役割。今年、1期生24人で始動したばかりですが、現代の不確実性を意識し、関心の高い学生たちが集まって

いると感じます。

5学部がワンキャンパスに集約されているので、デジタルマッピングの作成など、最新技術を扱う工学部のイベントに参加しやすい環境にあることも、ISIの魅力です。不安定な政治情勢はなぜ発生するのか、どう抑えるか。解決策を探りたい皆さんを待っています。